

トップページ > 研究ノート・研究会レポート一覧 > 日本の英語教育における評価基準について

このページを印刷

研究ノート・研究会レポート一覧

今回は「研究ノート」をご紹介します。「研究ノート」は、ARCLEの研究理事・研究員が現在注目する自由なテーマを執筆するコーナーです。初回は上智大学 吉田研作先生です。

日本の英語教育における評価基準について

上智大学 吉田研作先生

現在、最も話題になっている分野の1つは、日本における言語政策の土台となるべき基準の制定だろう。TOEFL iBTの結果等を見ていると、どうして日本人の英語力が、同じEFL環境にある他の国の人と比べてこんなにまで低いのか、ということが気になる。学習指導要領の改訂に際して、日本人の英語力、日本における英語教育の在り方について、さまざまな角度から調査がされてきた（文部科学省の「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」に関する研究グループの報告書等¹参照）。また、ベネッセのGTEC for STUDENTSを利用した国際比較調査²も毎年のように行われてきた。そして、これらの結果を基に、さまざまな提言がなされ、それが今回の学習指導要領に反映されるに至り、例えば小学校からの英語活動の導入から、高校の英語科目の大幅な改編まで、色々な努力がはらわれてきた。

しかし、今回の学習指導要領の改訂において足りないところがあるとすると、その最も顕著なものは、SELHi事業の成果として大きく取り上げられた、Can-do statementsの作成と、それをベースにしたカリキュラムや評価基準策定³への動きが、ほとんど取り入れられなかったことだろう。英検も独自のCan-do⁴を提案したし、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: learning, teaching, assessment）⁵が果たす外国語教育への役割については、世界中で何らかの形で論議されていると言っても過言ではないだろう。

世界共通のスタンダードが果たして本当に作れるかはわからないが、日本が置かれている「国際社会」で必要なスタンダードの研究は、今後ますます必要になるだろう。

1文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会 外国語専門部会（第13回）議事録・配付資料(資料3-2)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/015/06032707/005.htm

Benesse教育研究開発センター 教育フォーカス 調査データクリップ！子どもと教育 英語教育～第1回～

<https://berd.benesse.jp//berd/data/dataclip/clip0014/index.html>

22006年実施調査 東アジア高校英語教育GTEC調査2006

https://berd.benesse.jp//berd/center/open/report/eastasia_gtec/hon/index.html

3GTEC for STUDENTS Can-Do

<http://gtec.for-students.jp/cando/>

4<https://www.eiken.or.jp/about/cando/cando.html>

5http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Framework_EN.pdf

2024年度

2023年度

2022年度

2021年度

2020年度

2019年度

2018年度

2017年度

2016年度

2015年度

2014年度

2013年度

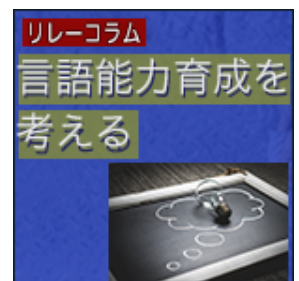
2012年度

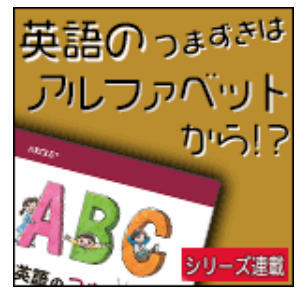
2011年度

2010年度

2009年度

2008年度





» [個人情報保護への取り組みについて](#) » [利用者情報の取り扱いについて](#)

ARCLE/アークルはベネッセ教育総合研究所が運営する英語教育研究会です。 Copyright © Benesse Corporation, Inc. All rights reserved.